

はじめに

平成 21 年度から平成 24 年度の日本の歯学教育の質向上のための諸活動の原点となっているのは、平成 21 年 1 月に提言された「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第 1 次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」である。

具体的には、①歯科医師として必要な臨床能力の確保、②優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の、③歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保、④未来の歯科医療を拓く研究者の養成の 4 項目である¹⁾。

臨床実習開始前の学生の能力評価として導入された共用試験システムは、制度そのものとしては確立されたが、本来の目的である診療参加型臨床実習の改善・充実には必ずしもつながっていないのが現状である。このような背景を踏まえて、上記の提言に対応する国の施策として、文部科学省・先導的大学改革推進委託事業等により、社会のニーズに応えながら歯学教育の改革が段階に展開された。

1. 平成 22 年度版・歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要²⁾

今回の改訂は、平成 22 年度为先導的大学改革推進委託事業として実施された。本改訂では、上述の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」において提言された方向性に沿って、近年の歯学教育に対する社会からのニーズを配慮しつつ、作業が進められた。

(1) 歯科医師として必要な臨床能力の確保

歯科医師として必要な臨床能力の確保を目指して、各大学における主体的で実効性のある教育が展開されるよう、冒頭に記載される「歯科医師としての職責・患者中心の視点・コミュニケーション能力・チーム医療・総合的診療能力・地域医療・研究志向・自己研鑽」の 8 つの視点より明確にされた。

診療参加型臨床実習の充実のために、その前提となる診療技能の向上・確保について各大学の学生が卒業時に到達すべき目標を明確化した。従来前文に掲載されていた「臨床実習」に係る一般目標、到達目標を、モデル・コア・カリキュラム本体中に「F 臨床実習」の単独領域として新設し、診療参加型臨床実習における一般目標、到達目標を明確にした。これにより、歯学教育モデル・コア・カリキュラム全体の中で、臨床実習の位置付けが明らかとなった。

(2) 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

安全で良質な歯科医療を提供できるように、口腔と全身の関わり、高齢者や全身疾患を有する患者等への対応、予防歯学、社会歯学など、医学・医療との連携を含めた幅広い歯学教育が行えるよう関連項目に係る記載内容の改善・充実が図られた。具体的には、超高齢化への対応の観点から、高齢者における口腔ケア処置、口腔機能向上による介護予防、要介護高齢者（在宅要介護者も含む）の歯科治療時の注意点、歯科医師に必要な医学的知識等が新設された。また、疾病構造の変化への対応の観点から、歯科における禁煙指導・支援による歯周病、口腔がんなどの予防、ライフステージに応じた食育等が新設された。

(3) 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

未来の歯科医療を拓く研究者の養成に向けて、

^{*1} Dentist

^{*2} Shiro Matakai 日本歯科医学教育学会理事長／東京医科歯科大学

学生の興味や将来の専門分野への志向に応じて、学生が自由に選択可能なプログラムを提供することや、研究室配属等を通じた科学的・論理的思考の修得や基礎研究や臨床研究を実施するため必要な基礎的訓練等、学部教育のあらゆる段階を通じて学生一人ひとりの研究志向の涵養に努めるべきことが記載された。

(4)多様な社会的ニーズへの対応

1) 医療安全（患者および医療従事者の安全性確保）の観点

院内感染を含む医療関連感染症、薬剤等の副作用、薬害等、医療安全に関わる記載を充実した。また、医療現場における労働環境の改善、臨床実習における放射線防護等に関連する記載も充実が図られた。

2) 患者中心のチーム医療（医療分野における多職種連携）の観点

大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定や歯科疾患の状況の把握および応急的対応が新設された。また、小児虐待防止の観点から、小児虐待の兆候と対応を新設し、さらに、男女共同参画の促進の観点が追加された。

今回のモデル・コア・カリキュラムの改訂内容が事実上決定した直後に、東日本大震災が発生し、放射線防護や大規模災害時の歯科による個人識別の項目については、極めて時宜を得たものとなった。

2. 診療参加型臨床実習の改善と充実と臨床実習の評価システムの構築

平成23年度には、平成22年度改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した診療参加型臨床実習カリキュラム事例集（案）が調査研究歯学チームにより策定された。診療参加型臨床実習、見学、介助、自験などの用語の定義がなされ、専門領域ごとに診療参加型臨床実習の方略と評価が具体的に明示された。また、診療参加型臨床実習と卒後に開始される歯科医師臨床研修を有機的に連携させる目的で、診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳（連携ログブック）が試作され、全国の大学に配布された。また、同事業の一

環として、平成23年12月22～24日には全国29歯科大学・歯学部の臨床実習担当教員等を対象としたワークショップを開催して、上記のカリキュラム事例集（案）と連携ログブックのブラッシュアップ、および情報交換の促進が図られた。また、韓国および豪州の歯学教育の実態、特に臨床実習の評価システムの構築、さらにこれに関連する歯学教育の認証評価についても調査研究が進められた³⁾。

3. 超高齢社会の医療者養成に関する教育

平成24年度先導的大学改革推進委託事業では、これまでの医学、歯学チームに新たに看護学チームが加わり、「高齢社会を踏まえた医療提供体制」に関して、社会が求める医療人の養成について「高齢社会を踏まえた医療提供体制見直しに対応する医療者教育の在り方に関する調査研究」が進められた。

具体的には、平成22年度に改訂された歯学教育モデル・コア・カリキュラムの円滑な実施に向けて、検討がなされた。平成23年度の研究成果を受けて、診療参加型臨床実習の改善・充実が最も優先度の高い課題であるという点が継続して認識されている。

また、歯学チームの事業の一環として、平成24年12月20～21日に「歯学教育者のためのカリキュラムワークショップ」が開催された。診療参加型臨床実習の先進的な取り組み事例として、臨床実習への患者協力を得るための工夫、電子版連携ログブックの試作などが紹介された。さらに、超高齢社会の歯学教育に向けて有効な学習方略として、地域医療・離島における歯科保健・医療・福祉・介護の臨床実習について、臨床実習におけるチーム医療・医科歯科連携などについて討議が行われた⁴⁾。

4. 歯学教育の質向上への取り組み状況

歯学教育に関する調査研究協力者会議第1次報告（平成21年1月）を踏まえたフォローアップ調査が平成22年度から行われており、その成果が表れてきている。今後の更なる改善が期待され

ている⁵⁾。

平成23年4月より、学校教育法施行規則第172条の2第1項に規定された教育研究活動等の情報の公表が義務付けられたことを契機として、各大学において更なる展開も見られる。各歯科大学・歯学部には、教育の質保証の観点から、教育の質向上に向けた取組をはじめとする教育方針・内容の公表を通じて、その透明性の向上と説明責任を果たす必要性があると同時に、その情報の公開によって広く社会に自らの存在意義を証明することが期待されるのである。

5. 歯学教育認証制度等の基盤構築への取り組み

わが国の歯科大学・歯学部が国際標準の教育を実施していることを証明するとともに、国際標準を超えるグローバルかつ優れた歯科医師を養成するため、日本における国際標準の歯学教育認証評価制度等の基盤を構築することを目的として、大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業（平成24年度～28年度）が採択された⁶⁾。

本事業は歯学教育に特化した専門分野別の認証評価制度の基準作りを行うとともに、まず試行段階として、国内の複数の歯科大学・歯学部においてトライアルとして認証評価が実施される。これまで国際標準の歯学教育内容を基準とした認証評価は、わが国で現在までに行われたことはなく、この歯学教育認証評価制度の構築はわが国の歯学

教育の国際化に向けて、極めて有意義なステップとなることが期待されている。

■文 献

- 1) 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第1次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」(平成21年1月30日) 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議。
- 2) 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－平成22年度改訂版」(平成23年3月) モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会，モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会。
- 3) 平成23年度文部科学省・先導的大学改革推進委託事業「卒前臨床実習の評価システムの構築」歯学チーム報告書（平成24年3月）。
- 4) 平成24年度文部科学省・先導的大学改革推進委託事業「高齢社会を踏まえた医療提供体制見直しに対応する医療者教育の在り方に関する調査研究」歯学チーム報告書（平成25年3月）。
- 5) 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第1次報告を踏まえた平成24年度フォローアップ調査まとめ（平成24年12月17日）歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議。
- 6) 「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」の選定結果（平成24年7月13日）文部科学省（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/_icsFiles/afieldfile/2013/04/04/1333007_1.pdf）